

WFC 事務局長 チャップマン スミス 様

WFC 事務局長は 2010 年 7 月 5 日に、私たちが講師を依頼したアメリカ人 D.C. 宛に「偽カイロプラクターが参加者に含まれるセミナーは中止するように」と要望するメールを送られました。この結果、講師の D.C. および科学新聞社は、セミナーを中止することを決定するに至りました。

科学新聞社にとってこれは難しい決断でした。なぜなら、これはセミナー開催まで 1 カ月を切った段階で起こった出来事であり、様々な準備をし、既に 30 人以上の参加申し込みもあったからです。講師がいないということで科学新聞社としては難しい事態に立たされました。

その後の顛末を申し上げますと、カイロジャーナルドットコム (<http://www.chiro-journal.com/>) のウェブ情報がそちらに伝えられているなら既にご存じのことですが、予定の講師の著作物の翻訳者である米国在住の日本人 D.C. に、代替講師として同日に同様の内容のセミナーを行うことを依頼し、承諾いただきました。そして無事に予定日の 8 月 7・8 日にセミナーを終えることができました。

私は科学新聞主催のこのセミナーのコーディネーターを過去 4 回させていただきました。今回の件に関しまして、私には WFC に対し以下の要望がございます。日本のカイロプラクティック・セミナーのあり方を多くの方に考えていただけるように、この手紙は近いうちにカイロジャーナルドットコムに掲載を予定しております。ご返信いただけたら、その手紙もウェブ掲載させていただきます。

1) 日本におけるセミナー活動に対し、WFC の直接的関与は避けていただきたくお願い申し上げます。これは講師に対し開催中止を直接指示することや、講師のスポンサー企業に講師への影響力行使をさせることなどを含みます。

ご存じの通り、日本では多くのカイロプラクターが、WFC の意志とは無関係に、カイロプラクティック関連セミナーを行っています。各自それぞれの考えで行っており、それを阻止する法的規制はなく、何に対しても違反していません。

WFC 声明は拘束力のあるものではなく普及もしていません。2010 年 8 月末現在、1991 年の声明、2009 年の声明ともに日本の WFC 代表団体のウェブ上に翻訳文書の掲載はありません。日本には日本の事情があります。日本で行われている他のセミナーの存在は無視し、WFC は今回の 8 月 7・8 日のセミナーにだけクレームを付けましたが、この行動に対して気まぐれな強権発動であると感じます。

このセミナーの中止を働きかけるのであれば、代表団体の JAC にその役割を依頼するなど、段階を踏んでいただきたかったと思います。それが貴団体の新声明により準じることでありましょう。

2) WFC は、WFC 声明の趣旨への賛同と遵守を強要しないで、声明への非賛同者に対し寛容になっていただきたくお願い申し上げます。

WFC は世界のカイロプラクティックを標準化し統一化ようと考えているように見受けられます。しかし柔軟性のない強力な規制が、世界のどの地域においても必ずカイロプラクティックの発展に寄与するとは思えません。カイロプラクティックの発展の仕方に多様性を認めることも、将来的なカイロプラクティックの発展につながる可能性があります。少なくとも、それを否定することは誰にもできません。

私は、日本において、CCE 認可の大学の卒業生でもなく、CSC (カイロプラクティック標準化コース) の修了者でもないけれども、立派なカイロプラクターを何人も知っています。よき臨床家である人も、貴重なカイロプラクティッ

ク関連研究を手がけている人もいます。お望みであれば WFC に自信を持って実名を紹介いたします。

WFC は、カイロプラクティックの定義を「専門職」としています。だから専門職の権益を守り、能力基準を維持するための活動を行っているのだと思います。しかし、カイロプラクティックは、専門職である前に、科学、芸術、哲学を備え持つ治療体系です。カイロプラクティックの発展のためには、カイロプラクティックを標準化すること以外にも、様々な道筋があると思います。

WFC が専門職としてのカイロプラクティックの標準化を世界に広める活動をすることに、何の異議もございません。しかし、日本においては政府により承認された教育機関も教育プログラムも存在していないので、正規教育、標準教育のレベルを維持することおよび、それを客観的に証明することは容易ではありません。仮に「WHO 基準に準ずる日本基準」という国際的コンセンサスがあったとしても、国内的なコンセンサスがなければ混乱するばかりです。現代日本においては標準化の無理な推進よりも、多様な形でのカイロプラクティックの普及と発展を許容することが必要だと思います。杓子定規な規制ではなく、その国の状況にあったカイロプラクティックの発展を許容していただきたいと思います。声明により一刀両断するのではなく、違う立場、違う状況の人々に寛容であるよう重ねてお願い申し上げます。

お読みいただきありがとうございます。お返事お待ち申し上げます。

2010 年 9 月 3 日

櫻井 京